

韓国青年訪日団（第3～5団）招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】「対日理解促進交流プログラム(JENESYS)」の一環として、在大韓民国日本国大使館、在釜山日本国総領事館、在済州日本国総領事館にて選抜された韓国の高校生等を招へいし、テーマに沿った講義聴講、学校訪問、ホームステイ、視察等を通じて、日本に対する理解を深めることで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】韓国の高校生等（団長3名、引率3名を含む） 合計100名

【訪問地】訪日（熊本県、宮崎県、長崎県、佐賀県、福岡県 合計100名）

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習事）：

2月4日（火曜日）（第3団）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

2月8日（土曜日）（第4～5団）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

■ 招へいプログラム：

2月11日（火曜日）福岡国際空港から入国

2月12日（水曜日）オリエンテーション

【講義】外務省「新しい日韓関係について」

【表敬】熊本県庁、【講義】「熊本地震からの復興と韓国との交流について」

【視察】熊本城

2月13日（木曜日）＜第3～4団＞

【視察】水前寺成趣園

【学校訪問・交流】専修大学熊本玉名高等学校

＜第5団＞

長崎県へ移動、【視察】南島原市アートビレッジ・シラキノ、有馬キリシタン遺産記念館、世界遺産「原城跡」

2月14日（金曜日）＜第3～4団＞

宮崎県へ移動、【交流・テーマ視察】地元の方々と神話伝説に縁のある高千穂の史跡を巡る（天岩戸神社・天安河原・高千穂神社・高千穂峡等）

＜第5団＞

【学校訪問・交流】長崎県立口加高等学校

【講義】「南島原地域の魅力について」

<全団>

【交流】ホームステイ対面式

2月15日（土曜日）終日ホームステイ

2月16日（日曜日）ホームステイ解散式

<第3～4団>

【文化体験】高千穂郷土料理「かっぽ鶏」づくり

【テーマ視察】百済王伝説」と「百済の里」を巡る（解説士と共に）

<第5団>

【視察】大浦天主堂、グラバー園

【テーマ視察】日本の平和教育（長崎原爆資料館、韓国人原爆犠牲者慰霊碑、平和公園）

【講義】被爆体験講話

2月17日（月曜日）<第3～4団>

【表敬】宮崎県庁、【講義】宮崎県の概要と韓国との交流について

【テーマ視察】青島神社

<第5団>

【表敬】長崎県庁、【講義】「長崎県と韓国との交流」「日韓海峡沿岸県市道水産交流会議について」「海岸漂着物対策における日韓の交流について」

佐賀県へ移動、【テーマ視察】日韓交流の足跡「釜山神社、陶山神社」

2月18日（火曜日）<第3～4団>

【テーマ視察】重要伝統的建造物群保存地区「飢肥城下町」

<第5団>

【テーマ視察】日韓交流の足跡「名護屋城博物館」

福岡県へ移動、

<全団>成果報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

2月19日（水曜日）宮崎国際空港、鹿児島国際空港、福岡国際空港から出国

2. 記録写真



2025年2月12日【講義】外務省「新しい日韓関係について」



2025年2月12日【表敬】熊本県庁、【講義】「熊本地震からの復興と韓国との交流について」

	
<p>2025年2月13日【学校訪問・交流】専修大学熊本玉名高等学校</p>	<p>2025年2月14日【学校訪問・交流】長崎県立口加高等学校</p>
	
<p>2025年2月16日【交流】ホームステイ解散式</p>	<p>2025年2月16日【視察】長崎原爆資料館</p>
	
<p>2025年2月17日【表敬】宮崎県庁、【講義】宮崎県の概要と韓国との交流について</p>	<p>2025年2月17日【表敬】長崎県庁、【講義】「海岸漂着物対策における日韓の交流について」</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 高校生

今回の訪日団のテーマは「日本の神話と伝説の故郷を巡る」ということで、数々の神社を視察し、日本の歴史を深く学ぶことができて良かった。神社はどこでも同じようなものだと思っていたが、視察するたびに異なる神を祀っており、神社が日本の皆さんの生活にいかに深く溶け込んでいるか、日本人にとって神社はどのような存在であるか、どのように考えているのか等、理解することができた。また、各県庁表敬では各地域の詳細や抱える問題等も学び、延岡という小都市でのホームステイでは現地に住む家族の皆さんと交流しながら、日本の生活文化を学ぶことができたことは、自分の考え方や視野を拡げてくれる良いきっかけにもなり、大変有意義な時間となった。

◆ 韓国 高校生

熊本城や各地の神社などをめぐりながら、日本では文化財保管・復旧に向けてたくさんの時間を投資しているということに印象深く感じた。また日本で8泊9日を過ごす中で、日本の文化について学び肌で感じることができ、日本を訪れる前よりも日本式の礼儀や各地域の文化などについて深く理解することができた。

◆ 韓国 高校生

ホームステイでは日本の民家で直接生活する経験を通じて多くのことを学んだ。日本語でホームステイのご家族の方々と会話しながら生活するうちに、日本語が上達したことも嬉しかった。また、サツマイモ焼き、薪割りなど一般的には経験できない多くの体験や、日本の家庭料理作り体験を通し、日本の生活と文化に対する理解を深めることができた。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 熊本県くまモン局国際課

熊本県は、韓国の忠清南道と1983年から42年にわたり、行政間や青少年交流、文化・スポーツ交流などを行っており、歴史的・文化的に韓国と強いつながりを持っている。今回の訪問では、熊本県の魅力（自然、「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」、くまモン等）について説明させていただき、訪日団の方々に熱心に聞いていただいた。また、くまモンも登場し、訪日団の皆様とふれあうとともに、県庁前のルフィ像も見学いただいた。今回の訪問により、熊本、ひいては日本をさらに好きになってもらえたなら幸いに思う。

◆ 宮崎県商工観光労働部観光経済交流局国際・経済交流課

韓国からはるばる宮崎まできていただき感謝している。宮崎と韓国とは歴史的にも繋がりがあり、そのひとつとして百済の王が本県に移り住んだと語り継がれている「師走祭り」が存在する。宮崎には今回の訪問では体験しきれなかった魅力やおいしい食材がまだまだたくさんあるため、是非ソウルと宮崎を結ぶ直行便を利用して、再度訪問してもらいたいと思う。

◆ 長崎県立口加高等学校関係者

本校のグローバルコース1、2年生と交流をしていただいた。生徒主体の交流会や授業体験などを通して、本校生徒も訪日団の方々もたくさんの刺激を受けていたようだ。少ない時間ではあったが、終始笑顔が絶えない交流となった。お互いの言語を使いながら、一生懸命にコミュニケーションをとる姿は今後の日韓関係がよりよくなることを予感させてくれた。

◆ 宮崎県西臼杵郡高千穂町ホームステイ受け入れ家庭

韓国人の方を受け入れたのが初めてだったため、受け入れるまでは不安もあったが、皆さんの笑顔に救われた。帰るころには家族が増えた気持ちになり、「じいじ、ばあば」と呼んでもらったことも嬉しかった。皆さんとても優しく日本語も上手で、このような交流ができるなら、いつもでも喜んで迎え入れたい。

◆ 長崎県南島原市ホームステイ受け入れ家庭

今回、3名の女子高生が泊まってくれたが、皆さんとても優秀で日本語で話もできたので、私たちもとても楽しく過ごすことができた。礼儀正しく、日本の文化、歴史、言葉を学ぼうという姿勢に感心した。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

<p style="text-align: center;">- 🏠 -</p> <p>귀마포토성에는 지진 피해로 인해 생벽이 무너져 내린 곳이 많았는데 떨어진 돌에 일일이 번호를 매겨 복원 작업에 힘쓰는 모습이 정말 멋있었다. 한국으로 돌아가면 귀마포토성을 지은 가토 기요마사자와 문화재 복원 기술에 대해 자세히 알아보고 싶다. 또 나중에 어른이 되면 귀마포토성에 한 번 더 방문하고 싶다!</p>	 <p>우리나라도 전통 건축물과 자연을 활용한 관광이 더욱 활성화되면 좋겠다고 느꼈다. 일본은 오래된 신사(神社)와 절(寺)이 현대적인 도시 속에서도 자연스럽게 공존하고 있어 전통이 살아 숨 쉬는 듯한 느낌을 받았다. 단순히 유적을 보존하는 것이 아니라 사람들이 찾고 생활 속에서 이어가는 모습이 인상적이었다</p>
<p>2025年2月12日（ブログからの抜粋） 熊本城では地震により被害を受け崩れ落ちた城壁が たくさんあり、落ちた岩一つ一つに番号を振り 復元作業に力を入れている様子が本当に格好良 かった。韓国に帰ったら、熊本城を建てた加藤清正と 文化財復元技術について詳しく調べてみたい。ま た大人になったら、熊本城を改めて訪問したい。</p>	<p>2025年2月13日（Instagram） 韓国も伝統建築物と自然を活用した観光がより活 性化されたら良いと思った。日本は歴史のある神 社やお寺が現代的な都市の中でも自然と共存して おり、伝統が生き続けているという感じがした。単 に遺跡を保存するのではなく、人々が集い生活の 中に浸透している様子が印象的だった。</p>
 <p>타마나 고교에선 부활절을 하는 친구들의 좋은 공연(취아부, 유도부, 검도부 등)을 보고 다시 한 번 일본의 동아리 활동과 한국의 동아리 활동을 비교해보게 되었습니다. 몇몇 동아리는 인스타 활동을 금지할 정도로 활동에 진심입 니다. 동아리로 대외나 공연등 여러 활동을 하며 자신을 성장 시키고 남들과 도우며 살아가는 방법등을 배웁니다. 이러한 일본의 동아리는 한국에서도 눈여겨보면 좋을 활동이라 생각 합니다. 저는 타마나 고교 친구들의 공연을 보며 제가 활동하 고있는 동아리에 어떻게 활용할지 어떤걸 배워갈 수 있을지 고민하며 즐길 수 있었습니다.</p>	 <p>나가사키 원자폭탄 기념관을 방문하며, 전쟁이 남긴 참혹한 연성과 파괴의 중요성을 깊이 깨닫게 되었다. 전시된 사진과 유물들은 단순한 역사적 의미나 실체로 많은 사람들의 삶을 찾아간 귀국원행 상 생각의 전례수였다. 특히 피폭 당시 놓인다는 원리법과 귀국원행 상 각들은 원자폭탄의 파괴력을 실감하게 했고, 희생자들의 마지막 흔적을 보며 마음이 부겨올랐다. 조선, 피폭 생존자들의 증언을 들으며 전쟁이 개인에게 미친 영향을 더 욱 깊이 이해할 수 있었다. 단순한 연보과 도시가 파괴된 것이 아니라, 수많은 가족이 하루아침에 삶을 잃었고, 살아남은 이들은 평생 후유증 과 처벌 속에서 살아야 했다. 기념관은 단순한 역사적 공간이 아닌 이, 핵무기의 위험과 평화의 중요함을 알리는 중요한 장소였다. 이번 방문을 통해 전쟁과 핵무기의 위험성을 다시 한번 깨닫게 되었으 며, 미래에는 이러한 비극이 반복되지 않도록 우리가 할 수 있는 일에 대해 고민해야겠다고 느꼈다. 평화는 단순한 주어진 것이 아니라, 우 리가 지켜내야 하는 가치라는 점을 가슴 깊이 새기게 된 특별한 경험이 였다.</p>
<p>2025年2月13日（ブログからの抜粋） （学校訪問で訪れた）専修大学熊本玉名高校では、 各部活動の素晴らしいステージ（吹奏楽部・柔道</p>	<p>2025年2月16日（Instagram） 原爆資料館は単なる歴史展示の空間ではなく、核 兵器の危険性と平和の大切さを私たちに示す重要</p>

部・剣道部等)を目の当たりにし、改めて日本と韓国の部活を比較してみた。

日本の部活ではインスタ等を禁止にするぐらい部活に真摯に取り組む。部活で大会出場や公演等の様々な活動を通じて自分を成長させ、周りと助け合いながら生きていく術を学ぶ。このような日本の部活は韓国でも注目すべきことだと思う。私は、同校の友人等の発表を見ながら、自分の部活にどう取り入れ、何を学べるかを考えながらも楽しむことができた。

な場所だった。

今回の訪問を通して戦争と核兵器の危険性を改めて認識するとともに、未来にこのような悲劇が繰り返されないよう私たちにできることを考えなければならないと感じた。平和は与えられるものではなく、私たちが守るべき価値である点を胸に深く刻んだ意義深い経験となった。



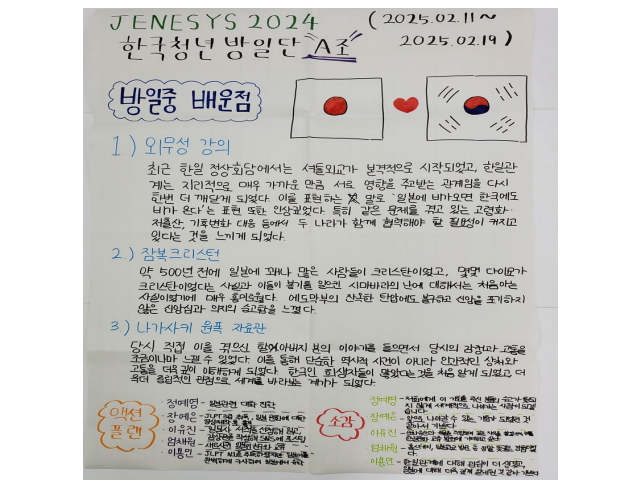
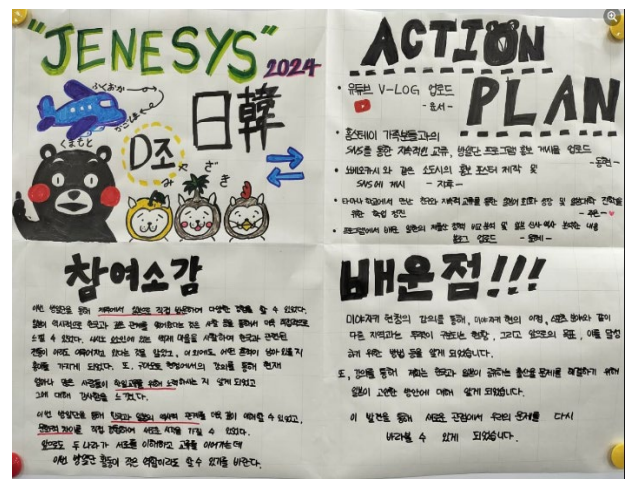
ルゾン)さん(17)は「地域の特徴や魅力と、それを生かしたPRについて幅広く学びたい」と話していた。



2025年2月21日(熊本日日新聞)
「韓国青年訪日団が来熊」韓国の高校生が熊本県を訪問し、県庁で県の人口や特産物、歴史的建築物などについての講義を受けた様子を、学生へのインタビューとともに紹介。

2025年2月25日(夕刊デイリー新聞社)
在韓公館が選抜する韓国青年訪日団の趣旨や日程の概要とともに、宮崎県延岡市で実施したホームステイ対面式の様子を、学生の挨拶の内容とともに紹介。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表 (概要または抜粋を記載する)



<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域で様々な講義や視察を通じて、少子高齢化等、日韓が抱える共通課題や日本の事例について学ぶことができ、新たな観点から日韓両国と私たちが抱える問題について見られるようになった。 ・外務省、各県庁の講義等で、日韓両国のためにいかに多くの努力をされており、両国関係がいかに重要であるか、新たな視点も持つことができた。今後の私たちの活動が、これからの日韓関係のために少しでも役割を果たすことができればと思う。 ・ホームステイや学校訪問を通じて、日本の生活文化や学校文化、日本人の細かい配慮や思いやり等を体験しながら学ぶことができ、更には「日本の神話と伝説の故郷を巡る」というテーマに沿った各視察を通じて、より深い日本理解につながった。 <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「百済王伝説」と縁の深い「師走まつり」の漫画を入手したので、韓国語に訳し、周りの人々に紹介する。 ・今回の訪日で学んだことを様々な媒体で SNS を通じ、紹介する。 ・訪日団で出会った同世代の友人、ホストファミリーとの交流を維持し続ける。 ・今回訪問した様々な小都市の魅力について広報していく。 ・日本の高校の部活について改めて調査し、韓国での部活の在り方に参考とする。 ・JLPT の試験受験等、日本語学習により一層力を入れる。 	<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外務省の講義では、日韓は地理的に近い分、互いに影響を与え合う関係であると改めて感じるとともに、少子高齢化や気候変動などの共通の課題に対しては互いに力を合わせる必要性が高まっていることを学んだ。 ・原爆資料館での被爆体験講和を通し、原爆を単純な歴史的な事件としてだけではなく、生々しい傷と苦痛を深く感じた。また、韓国人の犠牲者が多かったということも初めて知り、より中立的な観点から世界を見つめるきっかけとなった。 ・日本ではお互いに対する配慮が生活の中に根付いている。また、現代的な都市にはたくさんの伝統が共存し、自然を活用しながらも環境を保護するために多くの努力をしていることを学んだ。 ・長崎県と熊本県の訪問を通し、韓国と日本の関係は単に両国だけの関係なのではなく、自治体と自治体、学校と学校、人と人のように細かく緻密に結びついていることを学んだ。 <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化についての映像を制作し広報する。 ・日本史に関する書籍を読み、感想文を SNS に投稿する。 ・日本の大学に進学し韓国と日本の芸術文化交流を推進する。 ・韓国の高校生の日本に対する認識を調査し、統計資料を分析後、SNS に投稿する。 ・戦争と核兵器の危険性を知らせるため、被爆体験講和の内容を共有していく。
---	--

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金